

第6回 村岡新駅周辺地区まちづくり協議会 議事要旨

【日時】 2024年(令和6年)2月27日(火) 16:00~17:00
【場所】 藤沢市商工会議所 5階 502会議室
【議題】 ①まちづくりコンセプトブック(案)について
②まちづくりコンセプトブック(素案)に関するパブリックコメントについて

【出席者】 <市民代表> (敬称略)
渡場 清治 村岡地区自治町会連合会
<地元地権者等>
林 雅樹 土地区画整理事業区域 個人地権者等
<学識経験者>
中島 直人 東京大学 教授(会長)
石山 さつき 都市プランナー/
慶應義塾大学環境情報学部非常勤講師(副会長)
<経済団体>
相澤 光春 藤沢商工会議所
<関係事業者>
日野 大助 株式会社 神戸製鋼所
高橋 智志 東日本旅客鉄道(株) 横浜支店
<藤沢市>
藤岡 健一 企画政策課長
青木 将徳 産業労働課長
森井 壽浩 都市計画課長
額賀 健一 都市整備課長
<オブザーバー>
鎌倉市
独立行政法人 都市再生機構
<事務局>
都市整備部 都市整備課
(運営支援) 昭和株式会社

【資料】

(資料1) 「村岡新駅まちづくりコンセプトブック(素案)」に対するパブリックコメントの実施結果について
(資料2) まちづくりコンセプトブック案

内 容

(敬称略)

1 開会

事務局 開催に当たりまして、本会議の設置要綱第8条第2項で、会長及び半数以上の委員の出席を必要としております。現在、委員17人中11人に出席していただいておりますので定足数を満たしており、本日の会議が成立していることをご報告いたします。

本会議では会議録作成のため、録音と写真撮影をいたしますのでご了承ください。会議に先立ちまして、本協議会の主催者を代表いたしまして、藤沢市都市整備部参

事の額賀より、一言ご挨拶させていただきます。

額 賀 昨年の10月に土地区画整理事業の事業認可を国から取得し、事業が始まります。コンセプトブックについても今年度中の策定に向け、本日お披露目を行い順調に進んでおります。関わっていただいたまちづくり協議会の皆様、ありがとうございました。
まちづくり協議会は今後も継続していきますが、令和4年度、5年度での議題であった、当初の目的であるコンセプトブックの検討については、今年度で完了いたします。それに伴い、コンセプトブック検討にかかわった感想や今後の取り組みに対する想いなどをお聞きしたいと思っております。

事 務 局 続いて、本日の資料の確認をお願いします。
次第、資料1、まちづくりコンセプトブック案、座席表をお手元に用意してごさいます。また、貸し出し用の村岡新駅周辺地区まちづくり方針の冊子もお配りしていただきますので、資料は合計で5点となります。

事 務 局 会議の公開について。
この後の議事では、①まちづくりコンセプトブック（案）について②まちづくりコンセプトブック（素案）に関するパブリックコメントについてを予定しておりますので、公開で良いと考えていますがいかがでしょうか。

会 長 事務局よりありました通り、会議は公開でいこうと思いましたが何かご意見はありませんでしょうか。
特に無いようなので会議を公開ということで良いと思います。傍聴者には配布されている傍聴要綱を守っていただくこととしたいと思っておりますが、本日、傍聴の方はお見えでしょうか。

事 務 局 3名、お見えです。

会 長 傍聴の方の入室をお願いします。
（傍聴者入室）
傍聴の方はルールを守っていただき傍聴されるようにお願いします。

事 務 局 議事に入りたいと思うので中島会長よろしくをお願いします。

2 議事

(1) まちづくりコンセプトブック（案）について

会 長 今日は、コンセプトブックの検討がおおむね完了したという節目の回である。今後は完成したコンセプトブックをどう使っていくかということが重要になってくる。まずは2つの議案について事務局より説明をお願いします。

事 務 局 （資料1、まちづくりコンセプトブック案を用いて説明）

会 長 今の説明についてご質問・ご意見等はありませんでしょうか。

a 委 員 資料1のP2「2. 移動・交通に関すること」について、交通渋滞や生活のしやすさ

を考えた際に、村岡新駅周辺に建物が建つと交通量が増えることが考えられる。交通環境は横浜藤沢線の延伸によって大きく改善されるのではないかと考えているので、停滞している横浜藤沢線の整備をなるべく早めに行ってほしい。横浜藤沢線を整備することにより村岡地区の通過交通を捌く役割が果たせるかと思う。

事務局 横浜藤沢線については、都市計画道路としての位置づけがされており、整備主体は神奈川県、地元調整は藤沢市が行っている。計画路線には住宅が多数立地しており、整備そのものが難しい状況である。藤沢市としてもネットワークとして重要であることは認識しているので、整備については神奈川県にも要望している。また、観光シーズンは国道 467 号が渋滞しているため、横浜藤沢線が渋滞の車を横浜湘南道路にスポイトのように引き抜く役割を持っているのでその部分の交通量が緩和されると村岡に対する影響も変わると考えられるので、骨格の道路の整備を早急に行うように引き続き神奈川県などに要望を伝えていく。

a 委員 道路整備のスケジュールは見えているのか。

事務局 神奈川県が作成している道路計画は 5 年に 1 度更新されており、そこで整備計画路線と記載はあるが、それ以外の情報は藤沢市には来ていないので情報が分かり次第、みなさまにも共有していきたいと考えている。
また、新駅の開業による将来交通量の配分、駅ができたことでどのような交通の流れが変わるかの検証はしており、村岡への影響についてある程度の機能改善の役割を示していると思われる。

会長 10 年 20 年という長いスパンの中で村岡新駅周辺の整備と併せて県道の整備も進めていけると良いと思う。

a 委員 村岡新駅ができればどのようにしても車が入ってくるので車を逃がしていくような仕組みが必要である。

会長 今年度最後の協議会であり、コンセプトブックの策定も概ねできそうということで、一人一言ずつまちづくり協議会の感想や今後の取り組みに対する想いをお聞きしたい。

b 委員 シンポジウムで話された UDCK のように住民等が集まり、議論をする場が大切だと思った。村岡新駅のまちづくりが進む中で、どこにどのような人を集め、誰が音頭を取って進めていくのかということが大事だと思う。
新しい地域の拠点となる公民館が来年に供用開始となるので、そこを利用するのも一つの方法だと思う。アイパークでのイベント等を通じて研究成果のお披露目等、取り組みの紹介をしてもらうこともある。ただ、アイパークはセキュリティの関係上自由に行き来ができないのが課題。村岡新駅の自由通路の壁面や駅前広場も活用しながらアイパークの取り組みを紹介することで、共創のまちづくりになるかと思う。

c 委員 場の創造や組織の運営が大きな柱だと思う。藤沢駅北口のサンパール広場では芝生が敷いてあり、そこで市民が寝そべっている。サンパール広場のように、何をやるわけでもなく、自由に過ごせる場を市が提供し、使い方は市民が自由に考えるといったことが村岡でもフィットすると思う。これからの村岡新駅でどのような使われ方がされるのかを期待したい。

d 委員 コンセプトブックは素晴らしくまとまった印象。目指すべきまちづくりとして、新

駅ができることもなかなかないため、このような機会にかかわることができ、貴重な経験ができた。来年度以降、駅の整備に向けた工事などが始まるので、工事が始まるとより一層、村岡新駅周辺地区のまちづくりが具体的なものになってくると思う。引き続き駅周辺のまちづくりに携わっていきたいと考えている。

- e 委員 土地の分譲や売却について藤沢市と話しを進めており、だんだん具体的なレベルになってきている。
また、景観との調和に対する認識がより強くなり、兜松については観光資源として活用し、境界部分に設置するフェンスには鉄製の物ではなく和風にする等うまく景観と調和するように活用できればと思う。
未来の科学者を育てるというコンセプトのもと、出前授業や公開授業を行い、地域の皆様に恩返しができると思う。その中で様々な分野で活躍する科学者・研究者が生まれてくれればうれしい。
- a 委員 緑との関わりについてや、人を一番大切にするという記載があって良い。御霊神社や宮前公園をどのように見せるか、見てもらうかが重要。アイパークについて緑の南北軸としての位置づけがあるので、どのように協力してもらえるか、協力してもらうために必要なことは何かを議論できれば良いと思う。
シンボル道路についても、鎌倉市と連携しながら、わくわく感が感じられるような空間をどのようにすれば感じてもらえるかといった取組みが必要だと思う。
- f 委員 今年度から参加させていただいたが、読みやすくわかりやすいコンセプトブックになっていると思う。コンセプトブックの中でも共創の取り組みが非常に重要なポイントとなる。人口減少や藤沢市の職員の減少が避けられない中、行政のマンパワーだけではまちづくりが進められないので、地元のステークホルダーとなる方との関わりが重要になると思う。
庁内で共創という言葉を広めていくのが難しい状況であり、どう広げていけばいいのか悩んでいるところであるが、来年度以降コンセプトブックを使用しながら、庁内や市内の方々々に共創に向けたまちづくりについての理解促進を図れればと思う。
- g 委員 将来地区像等に賛同していただける企業等や現在藤沢市に立地しているアイパークや神戸製鋼所と相乗効果が図れる企業、ビジョンを共有していただける企業の誘致を図っていききたい。地元の子どもたちが村岡の変化していく過程に関わっていけるようにしていきたい。コンセプトブックは大人向けに作成しているものだと思うが、子ども向けの概要版などを作成し、年次ごとに子どもが理解できるような冊子の作成や、外国人向けの英語版、点字の物など、共生社会に向けて様々な方が関われるような仕組みを作ることが必要と思う。
- h 委員 従来の市街地整備や区画整理も重要だが、従来にない取組としてまちづくりを行うにあたってステークホルダーとなる方と連携し、周知や認知をされていくようになれば良いと思う。このコンセプトブックをどう使い、どう生かすがキーとなると思うので、しっかりと今後の推移を見守っていききたい。
- i 委員 今回、コンセプトブックの策定を行ったが、藤沢市としては当初ガイドラインを策定する予定であった。新しい試みであったこともありどう作っていけばよいのか不安を抱えながら作成を行い、伝わりやすさについても非常に苦労したが本日のシンポジウムで皆様から好評いただき良かった。
三牧先生のお話を聞き、UDCの重要性を改めて認識することができた。そのため、

村岡でも UDC かそれに準ずる組織を作り、まちづくりを進めていければよいと考えている。

副 会 長 改めてコンセプトブックの完成版を見て読みやすいと思った。バラバラと出たアイデアをどのように繋げて生かすかが重要である。また、すでにまちづくり協議会で議論を行っていることでこの繋がりではでき始めている。
藤沢市の職員の方の話聞き、まちづくりコンセプトブックを共有していくにあたり、子供版や英語版など、新しく村岡を知ってもらう機会を作ろうという意見が出たことに感銘し、これから村岡に来る誰もが分かりやすいものを作るということは重要だと思う。

会 長 次のステップについて共創だけが目的ではなく、具体的にみんなで何を考えるのかやどのようなプロジェクトを行っていくのが重要であり、みなさまのお話を聞いているとそのようなプロジェクトはいろいろあるのではないかと思った。例えば、神戸製鋼のフェンスについて、共創の仕組みで考えてみると神戸製鋼と藤沢市の2者で検討を行うのではなく、地域の方や専門家等が入って考えるということも共創だと思う。
宮前公園をどうしていくかを考えていくことも共創になる。藤沢市だけが考えるのではなく関わる人みんな考えていけば良い。
具体的な取組みをやるために、何かしらの組織が必要と思うので、次のステップとしてアーバンデザインセンターのような共創の取組みの場について考えていく必要があると思うので今後の協議会で議論していければ良いのではないかと思う。

3 その他

会 長 事務局から3点連絡があると伺っているので説明をお願いします。

事 務 局 1点目は、本日の会議の議事要旨は、ホームページ等で公開となります。後日、事務局で作成した議事要旨案を委員の皆様へ送付するので、ご確認をお願いします。
2点目は、コンセプトブックについてです。今回説明した案で今年度中の策定を行います。4月以降の製本するタイミングでデザインなどについては整えていきます。
3点目は、まちづくり協議会の今後の開催についてです。まちづくりコンセプトブックの検討は今回で終了となるが、まちづくり協議会はまちびらきまでを目途として続けていきたいと考えているので今後も活動は続く予定です。一方で、来年度の取組については現時点で確定しているものではないので共有すべき事案などができた際に開催をさせていただければと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

4 閉会

以上をもって、本日の会議を閉会とさせていただきます。

(了)